



県立図書館だより

Vol 63号 平成21年7月発行



風格のある二代目秋田県立図書館(大正8年～昭和35年。現千秋公園のお堀の向い側にあった)



県民読書運動の一層の浸透を

秋田県立図書館協議会会長 森田 溥

昨年6月、2010年を「国民読書年」とする国会決議があった。現在の多様な電子文化の進歩発展による文字・活字文化衰微の懸念からの国家的発案である。

秋田県ではそれに先立ち、県教育委員会が平成15年から5か年計画で県民の読書活動推進計画を策定し、その運動を現在も継続している。その中心は、読書環境の整備と読書活動に関する情報提供である。多様な活動が実施されたが、子ども読書支援センターの設置や読書サポーターの養成一般読書の推進のみならず調査やビジネス支援なども含めた活動である。この運動をさらに実効のあるものにするにはどうするかが改めて問われることになる。

かつて青森県立図書館長に就任した鈴木健二氏は、青森県の読書運動は県内の地方からをモットーに、本を持ち歩きながら巡回講演をした。反応はよかったという。

今、NHK教育テレビの「日めくり万葉集」が面白い。毎週月曜から金曜までの早朝5時からの5分間であるが、日曜の午前6時から25分間の再放送もある。何よりも万葉集に関する本をひもときたくなるのがいい。

読書運動の地方浸透やメディア利用の例を上げたが、読書への導きは、活字に向かわざるを得ないきっかけの提供が大事である。全県的な波を起こすには、そういう場面の企画も期待されよう。

子ども読書支援センターの活動紹介

子ども読書支援センターでは、県立図書館のおはなしタイム、児童会館図書室での読み聞かせ等、様々な活動を行っています。

6月10日(水)から12日(金)の3日間、県教育委員会の主催で県北、県南、中央地区と3箇所で行われ、子ども読書支援センターの職員が講師を務めました。講義と演習の二部構成とし、講義では、子どもに本を紹介していくための心構えや絵本の紹介、おはなし会でのプログラムの組み方などについての内容で、絵本の読み聞かせ、新聞や指人形を使った話も盛り込み、現場ですぐに役立ててもらえるようにしました。

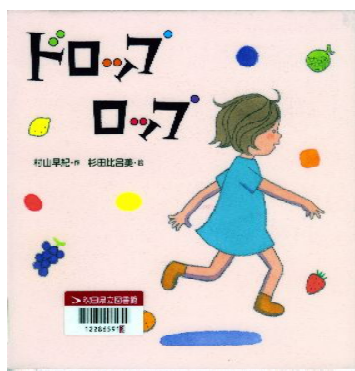
演習では紙コップを使った人形を作成し、できた人形を使ってわらべ歌の実演も行いました。

ボランティア同士の交流の場ともなり、和気あいあいとした楽しい会となりました。



絵本の紹介

『ドロップロップ』 村山早紀／作 杉田比呂美／絵 佼成出版社



赤、みどり、白、だいたい色、むらさき、黄色。主人公の女の子がいろいろな色のドロップから、いろいろな味、そして日常の中にあるいろいろな色とその色にまつわる出来事に思いを広げていくお話です。優しい色彩の絵とリズムある文章。読み手の方も幼い頃を懐かしく思い、子どもと一緒に楽しんでもらうことができます。児童文学作家として数多くの本を出してきた村山早紀氏の初の絵本です。絵は児童文学から大人の読み物の挿絵まで多岐にわたり活躍している杉田比呂美氏です。

お知らせ

○7月1日より、駐車券有効時間が発券から3時間となりました。駐車券には「1時間」と記載されておりますがしばらくの間「3時間」と読みかえてくださいますようお願いいたします。なお、3時間以上駐車した場合は、これまで同様閲覧室カウンター向いの検印機にて検印を行ってください。

◆2階閲覧室

○テーマ展示「感じてみませんか
なつ・ナツ・夏」

期間:7/2~8/2

○郷土資料コーナー展示

「これぞ秋田の宝シリーズ2
~夏まつり~」

期間:7/2~8/31

○えほんのへやミニ展示

「小学生にもオススメ!えほん」

期間:7/2~8/2

館内展示

○医療コーナーミニ展示

「病院と薬」 期間:7/2~8/2

◆スロープ展示 「和紙ちぎり絵」

ミニコンサート

7/19 ドルチェ(管弦楽)

8/23 秋田琵琶会(琵琶弾き語り)

9/6 花音(琴合奏)

場所: 図書館1階エントランスホール

スロープ昇り口階段

時間: 午前9時20分~9時50分

入場無料

編集発行 秋田県立図書館

〒010-0952 秋田市山王新町14-31

TEL 018-866-8400

発行月 平成21年7月

FAX 018-866-6200

URL パソコン用 <http://www.apl.pref.akita.jp>

自動応答電話 018-866-8406